



アグリ情報

ちば



Agri Information CHIBA



私たち全農グループは、**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋** になります。

1月5日(水) 初市の野菜宝船 (大田市場)



CONTENTS

年頭のご挨拶

全農自己改革

- 買取販売の拡大・実需者直接販売の拡大

営農情報

- 園芸野菜 病害虫防除情報

園芸情報

- 販売経過および情勢

米穀情報

- 米穀情勢

肥料情報

- 水稻育苗培土・省力化技術のご紹介

生産資材情報

- 「本州太陽シート」でらくらく平置き育苗(水稻)

トピックス

- 千葉県農協A.T.A協議会 総合技術研究会を開催
- 令和3年産 千葉米食味コンクールを開催
根本博示さんが千葉県知事賞を受賞!
- イオンリテール(株)近畿圏で千葉県産農産物をPR

年頭のご挨拶



全国農業協同組合連合会千葉県本部
運営委員会会長 林 茂 壽

令和4年の年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
組合員、JAならびに関係機関の皆様におかれましては、ご健
勝にて新たな年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、依然として新型コロナウイルスに振り回された一年で
した。現在においても終息が見えない状況にあり、経済の回復には時間がかかる
ものと、拝察をするところでございます。

この新型コロナウイルスによる需要の減退で米価の下落や燃油高騰による生産
コスト上昇など農業生産は大きな影響を受けました。

このため、JAグループをあげて組合員の皆様に支援すべく、今後も消費拡大
の取り組みを含め、主食用米価格の回復に向けて、関係機関と連携してまいります。

このような状況のなか、JAグループ千葉は、昨年11月に開催された第38回
JA千葉県大会で、農業者の所得増大や農業生産の拡大への更なる挑戦、地域の
活性化への更なる貢献などについて着実な成果を挙げていくことを確認しました。
「持続可能な農業・地域・事業・経営基盤の実現～食と農を基軸として地域に根
ざした協同組合であり続けるために～」の共通テーマのもと、JAグループが一
体となって全力で取り組んでまいります。

JA全農は、新たな3か年計画（2022～24年度）がスタートする年となります。
この3か年計画では、2030年のあるべき姿を見据えて「持続可能な農業と食の
提供のため“なくてはならない全農”であり続ける」という基本姿勢のもと、自
己改革の取り組みを前進させ、生産基盤の維持や産地づくり、生産性の向上に努
めるとともに、生産から販売までの一気通貫した仕組みの構築による販売強化等
により、農業者所得の増大を組合員の皆様に実感していただけるよう、職員一丸
となって取り組んでまいります。

今後とも、本会事業へのご理解とご協力をお願いするとともに、本年が皆様と
千葉県農業にとりまして、新たに飛躍する年となりますようご祈念申し上げ、年
頭のご挨拶とさせていただきます。

全力結集で挑戦し、
未来を創る

全農自己改革の取組状況

米穀事業

買取販売の拡大・ 実需者直接販売の拡大

1. 取組目標と内容

生産者の手取りの早期確定による農業経営の安定に向けて買取販売を拡大するとともに、実需者に対する安定供給の実現と生産者に対する実需者ニーズに基づく提案を実施しています。

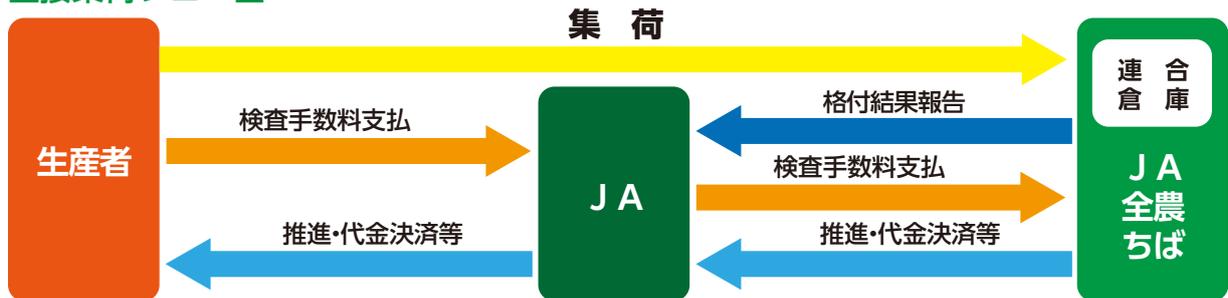
2. 自己改革の進捗状況

(1) 直接集荷の取組拡大

- 米穀卸と販売数量の事前契約を結び、販売先の確保に努めています。
- JA・支援センターと連携し大規模担い手生産者からの直接集荷の取り組みを実施しています。なお、令和3年産米は、飼料用米をはじめとする水田活用米穀への転換をすすめたことから前年より減少しました。

令和3年産米実績：6JA 1,012トン（前年比75%）

直接集荷フロー図



連合倉庫での農産物検査風景



(2) 実需者直接販売

- 生協・量販店・業務用取引先および米穀卸との契約を結び、安定した取引に継続的に取り組んでいます。
- 大規模担い手生産者（123名）を対象に反収の確保や作期分散を目的に実需者提携米の契約栽培を提案し、実需に結び付けた販売をすすめました。

令和3年産米実績：1,516トン（前年比98%）

3. 今後の取り組みについて

引き続き、生産者の農業経営の安定化に向けて実需者ニーズに基づく提案をするとともに需要に応じた生産・販売に向け、更なる飼料用米等への作付転換に取り組んでまいります。

園芸野菜 病害虫防除情報

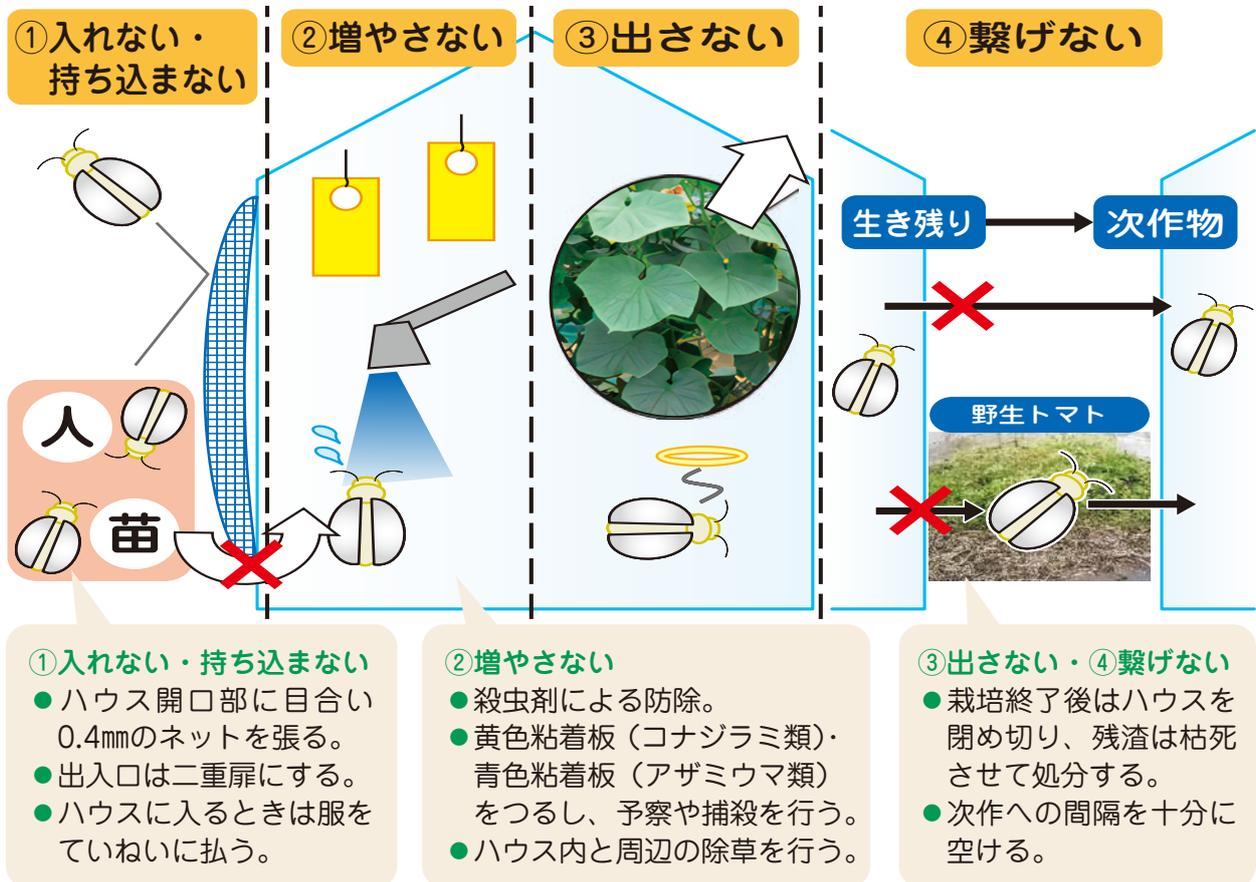
1. はじめに

気象庁による予報では、1月の気温はやや低めですが、降水量はやや少なく、かつ日照時間がやや長めで比較的天候が安定する傾向です。年内から病害虫の発生が少ない傾向で推移しておりますので、これらの気象条件から急増は起こりにくいと予想されます。しかし、この時期から発生すると春以降も被害が続いてしまいますので、発生前～初発に防除ができるようしっかりと圃場を観察しましょう。

2. 施設作物 微小害虫対策（コナジラミ類・アザミウマ類など）

微小害虫対策で重要なことは害虫をハウスへ**侵入させない**ことです。コナジラミ類やアザミウマ類は越冬作型のハウス内やハウス周辺の雑草等に生息しており、風や人・モノの移動によって育苗ハウス内へ侵入します。栽培初期に発生してしまうと、ウイルス病等のリスクも大きくなります。基本的な対策を徹底することが重要ですので、下記の事項を再確認しましょう。

- ハウス開口部や風上側など害虫が飛び込みやすい箇所には0.4mm目合いの防虫ネットを展張しましょう。
- 防虫ネット等にほつれが無いか確認しましょう。
- 側窓・天窗下などに黄色粘着板を吊るし、予察・捕殺を行いましょう。
- 害虫が発生しているハウスに入った際は、出る前に作業服をよくはたきましょう。
- 前作残渣は、きちんと枯らしてから処分しましょう。



○トマト コナジラミ類・アザミウマ類 初期防除剤（育苗～定植）

対象害虫	IRACコード	薬剤名	使用量・使用方法	使用時期	使用回数	注意点
コナジラミ類	4A (ネオニコチノイド系)	ベストガード 粒剤	1～2g/株 株元処理	育苗期	1回	育苗期・定植時 どちらか1回
			1～2g/株 植穴土壌混和	定植時	1回	
コナジラミ類 ・アザミウマ類	28 (ジアミド系)	プリロッソ粒剤 (オメガ)	2g/株 株元散布	育苗期後半～ 定植時	1回	プリロッソは 土壌水分が必要
		ベリマークSC	400倍/25ml/株～ 800倍/50ml/株 灌注	育苗期後半～ 定植当日	1回	

○トマト コナジラミ類・アザミウマ類 生育時の散布剤

対象害虫	IRACコード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	浸透移行性
コナジラミ類 ・ アザミウマ類	5	ディアナSC	2500	収穫前日 まで	2回以内	×
	6	アグリメック	500～1000		3回以内	×
	23	モベントフロアブル	2000		3回以内	○
	28	ベネビアOD	2000		3回以内	○
	4A	モスピラン顆粒水溶剤	2000		3回以内	○
コナジラミ類	9B	コルト顆粒水和剤	4000		3回以内	×

注意：薬剤抵抗性が出ないように、系統の異なる薬剤を選択しましょう。

●薬剤使用時のポイント

- (1) 粒剤・灌注処理剤は根から成分が吸収されることで効果を発揮します。そのため、使用方法を守りましょう。
- (2) コナジラミ類・アザミウマ類はどちらも下位葉裏側から寄生を始めます。発生状況を確認し、発生前～発生初期に防除を行いましょう。
極初期発生はヒザより下からなので、株元にしゃがみ、葉の裏をよく観察しましょう。
- (3) 同じ系統（IRAC）の薬剤の連続散布は避けましょう。
アザミウマ類はおよそ10～14日、コナジラミ類は21日ほどで卵から成虫になります。散布後はこの期間が経過する前に発生状況を確認し、次の防除時期を検討しましょう。

コナジラミ類 幼虫・サナギ



3. 果菜類（灰色かび病）【トマト・キュウリ・イチゴなど】

(1) 灰色かび病の胞子は、咲き終わった花弁・枯れた葉先等にまず定着し（死物寄生）、健全な部位へと移ります。

果実に付着した花弁や摘葉した葉は発生源となるので取り除きましょう。

(2) 灰色かび病が発病した葉や果実は通路に放置せず、必ずハウス外へ持ち出し埋却処理等による処分を行います。

(3) 灰色かび病は高湿度を好みますので、日中は換気を行い、施設内が過湿にならないよう管理しましょう。処分予定の収穫物をハウス内に放置しない



○トマト 灰色かび病 防除薬剤 ※

FRACコード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
M7	ベルコートフロアブル	2000～4000倍		3回以内	予防
1+10	ゲッター水和剤	1000～1500倍		5回以内	
2	ロブラール水和剤	1000～1500倍	収穫前日まで	3回以内	予防・治療
11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2000～3000倍		3回以内	
	アミスター20フロアブル	2000倍		4回以内	
7+11	シグナムWDG	2000倍		2回以内	

○キュウリ 灰色かび病 防除薬剤 ※

FRACコード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
M7	ベルコートフロアブル	2000倍		7回以内	予防
2+10	スミブレンド水和剤	1500～2000倍		5回以内	
2	ロブラール水和剤	1000～1500倍	収穫前日まで	4回以内	予防・治療
11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2000～3000倍		3回以内	
	アミスター20フロアブル	1500倍		4回以内	

○イチゴ 灰色かび病 防除薬剤 ※

FRACコード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
M7	ベルコートフロアブル	2000倍		5回以内	予防
2	ロブラール水和剤	1500倍		4回以内	
7+11	シグナムWDG	1500～2000倍	収穫前日まで	2回以内	予防・治療
11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2000～3000倍		3回以内	
	アミスター20フロアブル	1500倍		本圃3回以内	

※以下の剤は混合剤のため、各薬剤の総使用回数に注意

ゲッターはトップジンM、スミブレンドはスミレックス、シグナムはカンタスとの混合剤

園芸情報

販売経過および情勢

青果物 12月の販売経過

12月の天候は寒暖の差が大きく、上旬から中旬の気温は平年を上回りましたが、下旬は強い寒気の影響を受け、気温が低下しました。また、北日本の日本海側や東日本太平洋側では、降雪量・降水量が多くなりました。一方、西日本太平洋側は日照時間が多くなりました。

12月の東京都中央卸売市場の野菜入荷量は、全体では前年同月の96%となりました。

タマネギやパレイショは前月に続いて前年を下回る入荷となりました。生理障害や病害の影響も見られた熊本産のトマトや月後半の冷え込みにより生育が伸び悩んだレタス、ほうれん草等も前年を下回りました。一方で、生育が順調だったキャベツは前年より若干増加し、ねぎ、だいこん、きゅうり等は概ね前年並みの入荷でした。

価格は全体で前年同月の113%となりました。

入荷が少ないパレイショとタマネギは前年を大幅に上回る価格となったほか、トマトやレタスもやや少ない入荷のため、前年を上回りました。一方で、だいこん、キャベツをはじめ、ねぎ、にんじんなどの主要野菜は潤沢な入荷と中旬までの気温高から消費が伸び悩む傾向もあり、前年を下回りました。

国産果実の入荷量は、全体では前年同月の92%となりました。

12月は生育にバラつきが見られたいちごの「とちおとめ」やりんごの「ふじ」、早生みかんなどが前年を下回りました。

価格は全体で前年同月の108%となりました。

下旬はクリスマス需要が高まったこともあり、入荷が前年より少なかったいちごをはじめ、多く分の品目が前年を上回りました。

※数値はどれも東京都中央卸売市場統計データによる

東京都中央卸売市場の野菜入荷量および単価（12月）

	数 量		単 価	
	(t)	前年比 (%)	(円/kg)	前年比 (%)
上 旬	38,509	93	221	120
中 旬	41,168	100	227	114
下 旬	43,434	96	267	108
月 計	123,111	96	239	113

JA全農ちばの販売状況（12月）

	数 量		単 価		取 扱 額	
	(t)	前年比 (%)	(円/kg)	前年比 (%)	(百万円)	前年比 (%)
野 菜 計	37,827	96	128	106	4,839	102
果 実 計	143	139	1,946	106	278	146
だいこん	9,367	96	56	100	521	96
にんじん	11,069	94	88	86	969	81
キャベツ	7,111	88	54	101	385	89
ほうれん草	165	100	359	99	59	98
ね ぎ	1,694	112	269	80	455	89
春 菊	139	93	837	124	116	116
レ タ ス	738	102	181	145	133	148
パ セ リ	42	95	1,702	197	72	187
きゅうり	1,349	120	326	96	439	114
ト マ ト	568	123	372	145	211	178
さつまいも	2,869	104	224	114	641	119
い ち ご	139	137	1,998	107	278	146

1月主要品目

作付動向・作柄状況

見通し基準（前年対比）	
多・高	+10%以上
やや多・やや高	+5%～10%
並	±5%以内
やや少・やや安	-5%～10%
少・安	-10%以上

入荷量・価格は東京都中央卸売市場の集計です

品名	入荷量 (t)		価格 (円/kg)		主産地	作柄および概況
	当年見通し	前年実績	当年見通し	前年実績		
キャベツ	多	12,887	安	99	愛知 千葉 神奈川	各産地の生育は概ね順調。前年は前進出荷で1月は少ない出回りとなったが、今年は前年を上回る見込み。価格は豊作基調から販売苦戦が予想され、前年を下回る見込み
だいこん	やや多	10,597	やや安	90	千葉 神奈川	千葉、神奈川ともに生育順調で、前年をやや上回る出荷を見込む。成人式の連休までは引き合いがある中での販売となるが、月後半は徐々に価格を下げての販売を見込む。
にんじん	やや多	6,788	安	141	千葉 埼玉	千葉の作柄は良く、前年並みの出荷量となる一方で、埼玉・茨城は干ばつで不作だった前年を上回る出荷量を見込む。価格は前年を下回る展開が予想される。
トマト	やや少	5,937	やや高	342	熊本 本木 愛知	熊本は黄化葉巻病の影響で出荷量は前年よりやや少ない。関東や東海地区などの生育は良好。冷え込みの影響が懸念されるが、総体では前年並みに近い入荷を見込む。
きゅうり	並	4,711	並	389	宮崎 高知 千葉	年内の越冬産地の生育は順調で、年明け以降も前年並みの入荷が見込まれる。下旬から恵方巻需要により引き合いが強まるも、価格は前年並みで平年を下回る見込み。
ねぎ	多	4,576	安	422	千葉 茨城 埼玉	関東産が主体の入荷。年内の好天により肥大も良く、各地2L・Lが中心。乾燥による肥大不足が目立った前年と比較し入荷は多く、高値の前年を下回る販売を見込む。
ほうれん草	やや多	1,409	やや安	610	群馬 茨城 埼玉 千葉	生育は順調である。気温が下がり停滞気味だが、一部地域で作付けが増えたことで入荷量に不足はない。価格は高かった前年を下回り、平年をやや下回る見込み。
パセリ	やや少	37	やや高	1,098	千葉 静岡 岡山	千葉は作付け減少や生育不良により出荷量は前年を下回る。他県においても作付け減少が見られるため、入荷量は前年を若干下回り、価格は前年をやや上回る見込み。
春菊	並	270	並	995	千葉 栃木	12月以降の冷え込みにより、前年同様に1月の出荷量は平年を下回る見込み。冷え込みの強まりにともなう需要の伸長から前年並みの堅調な価格が見込まれる。
レタス	並	4,703	並	229	静岡 岡山 兵庫 香川	全国的に生育は順調で、前年並みの潤沢な出荷を見込む。各産地で潤沢な出荷となることから、価格は平年をやや下回るも、概ね前年並みの推移となる見込み。
なばな	やや多	231	並	824	千葉	四国産の京浜市場出荷が本格化。千葉も中生品種中心に生育は順調。乾燥が目立った前年と比較し入荷はやや多くなるが、量販店からの需要の増加から価格は前年並みを見込む。
さつまいも	やや多	2,697	並	277	千葉 茨城 徳島	各産地とも生育は良好でLサイズの発生も前年より多い。厳しい冷え込みにともない、焼き芋需要が強まる期待感から堅調な相場を維持し、前年並みの価格を見込む。
いちご	やや少	4,390	並	1,474	栃木	年始は出荷の少ない産地もあるが、生育は順調。作型によるばらつきはあるものの、中～下旬から2番果房の出荷が増量し、価格は前年並みとなる見込み。

花 販売情勢

◆12月の販売経過【切花】

本年は各産地品目によってバラつきのある出荷となりました。ストック、水仙などでは秋口の気温高から前進傾向となり、球根類では11月以降の冷え込みにより生育遅れがみられました。また、輸入品においてもコロナ禍や輸送費高騰の影響から不安定な入荷となり、花き全般をとおして入荷が少ないものとなりました。販売については、花き全般で品薄感が強く、上旬からストック、金魚草等で安定した販売となりました。第4週になるとクリスマス需要により赤系洋花類に動きが出始め、同週後半からは年末年始需要により価格が上向き、堅調な販売となりました。

上・中旬には松市・千両市が開催され、松については夏場の長雨・高温、生産者の減少等の影響により入荷量は少なく、前年を上回る価格となりました。千両は台風等の影響もなく、概ね良好な生育となるなか、上位等級品ではやや動きが鈍いものとなりましたが、下位等級品は量販・小売店を中心に前年並みの価格となりました。

◆今後の見通し（2月）【切花】

前年は1月の寒波以降の気温上昇とコロナ禍による産地の出荷調整から品目によってバラつきのある入荷となりました。本年においては大きな天候被害もなかったことから各産地安定した出荷となる見込みです。

販売については、1月下旬からのバレンタイン需要、2月下旬以降の卒業式、入学式需要、桃の節句等のイベントにより量販・小売店を中心に動きが出る見込みとなっています。しかし、昨年から好調に推移しているホームユース需要については、コロナ禍の動向によるところも多く、予断を許さない状況が見込まれます。



◆今後の見通し（2月）【品目別】

品 名	作 柄 お よ び 概 況
ス ト ッ ク	前進の影響から山形・福島等の東北産地の出荷は終了し、千葉の出荷が主力。今後の気温に左右されるも暖地を中心に安定した入荷となる見込み。
カーネーション	千葉・愛知の出荷が主力。業務において白・グリーン系に動きはあるも、量販・小売店においてはバレンタイン以外大きな需要もないことから厳しい販売となる見込み。
キンセンカ	千葉の出荷が主力。彼岸需要に向け増加するも高齢化により出荷量は平年を下回り、今後の天候によっては品質にも影響が出る見込み。業務中心に上旬から徐々に動きが出る見込み。
ガ ー ベ ラ	千葉・愛知・静岡の出荷が主力。大輪系の出回りがやや少ないものの各産地とも生育は概ね順調に推移しており、出荷量は昨年並みを見込む。バレンタイン需要中心の販売。
菜 の 花	千葉を中心に愛知・和歌山の出荷が主力。生育はやや遅れ気味となっており、今後増加傾向にあるものの天候によっては出荷に増減が出る見込み。下旬から桃の節句に向け動きが出てくる見込み。



米 穀 情 勢

1. 米穀販売事業者における販売数量の動向について

農林水産省が公表した「米穀販売事業者における販売数量・販売価格の動向」によると、令和3年10月における米穀事業者の販売数量は、前年比97.7%と7か月ぶりに前年を下回りました。コロナ禍前である前々年との比較でも95.6%と下落幅が広がっています。

販売先別にみると、小売事業者向けが96.3%と大きく下落しており、緊急事態宣言解除による内食需要の沈静化が見られる一方、中食・外食事業者向けも99.5%と回復途上であり、依然として厳しい販売状況となっています。

【図表1】米穀販売事業者における販売数量の動向（令和3年10月・農林水産省）

前年同月比（カッコ内は前々年同月比）

	R3年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
小売事業者向け販売	106.5%	95.7%	84.2%	92.0%	108.1%	98.9%	98.9%	101.1%	99.6%	96.3%
（令和元年との比較）	(107.6%)	(106.8%)	(104.2%)	(100.8%)	(103.0%)	(102.4%)	(102.0%)	(105.7%)	(101.2%)	(99.2%)
中食・外食事業者向け販売	87.0%	87.5%	102.6%	121.2%	115.3%	103.8%	105.5%	100.1%	101.8%	99.5%
（令和元年との比較）	(85.6%)	(86.9%)	(90.8%)	(90.8%)	(87.2%)	(92.4%)	(90.7%)	(85.0%)	(90.3%)	(91.5%)
販売計	97.0%	92.2%	91.1%	102.5%	111.0%	100.9%	101.6%	100.7%	100.5%	97.7%
（令和元年との比較）	(96.7%)	(97.6%)	(98.0%)	(96.3%)	(95.9%)	(97.9%)	(96.8%)	(95.8%)	(96.3%)	(95.6%)

2. 今後の需給見通しについて

(1) 11月19日公表の農水省の需給見通しは、以下のとおりになります。

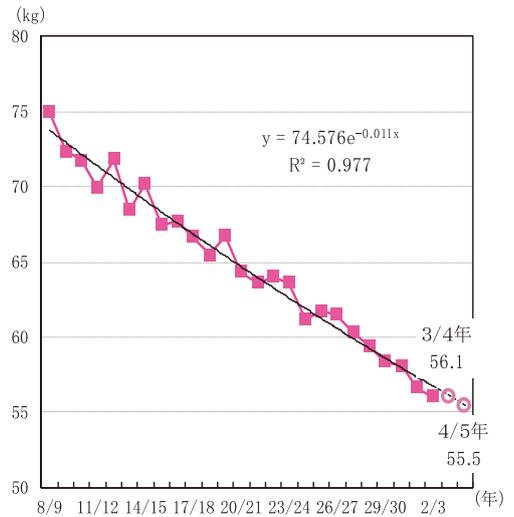
- 令和3年6月末の民間在庫は、218万トンです。
- 令和3年産主食用米等の生産量は、701万トン（令和3年10月25日現在の令和3年産水稻の予想収穫量）です。
- 令和3年産米の相対取引価格が令和2年産米より下落していることが需要量に及ぼす影響や、直近の米の販売量が対前年同期比で増加していることを踏まえ、702万トンから706万トンまでの幅を持って設定します。
- 令和4年6月末の民間在庫は213～217万トンまでと見通されます。

【図表2】令和3/4年および令和4/5年の需要見通しの算出方法

- ① 平成8/9年から令和2/3年までの1人当たり消費量を算出
- ② 令和3/4年および令和4/5年の1人当たり消費量（推計値）を算出

年	需要実績 ① 万トン	人口 ② 千人	1人当たり消費量 ①/② kg
8/9	943.8	125,859	75.0
9/10	912.9	126,157	72.4
10/11	907.3	126,472	71.7
11/12	885.9	126,667	69.9
12/13	911.5	126,926	71.8
28/29	754.0	126,933	59.4
29/30	739.6	126,706	58.4
30/元	734.6	126,443	58.1
元/2	714.4	126,167	56.6
2/3	704.0	125,708	56.0

注：人口は、総務省「人口推計」の各年10月1日現在の値である。



(単位:kg)

年	x	1人当たり消費量(y)
3/4	26	56.1 (推計値)
4/5	27	55.5 (推計値)

(2) 令和5年6月末の民間在庫は、令和3/4年需要量が前年並みに推移した場合においても196～200万トンと依然として高水準にあることから、各県においては、自県産の販売・在庫状況等を勘案のうえ生産の目安を設定し、作付転換を進めることが極めて重要です。

【図表3】 今後の需給見通し

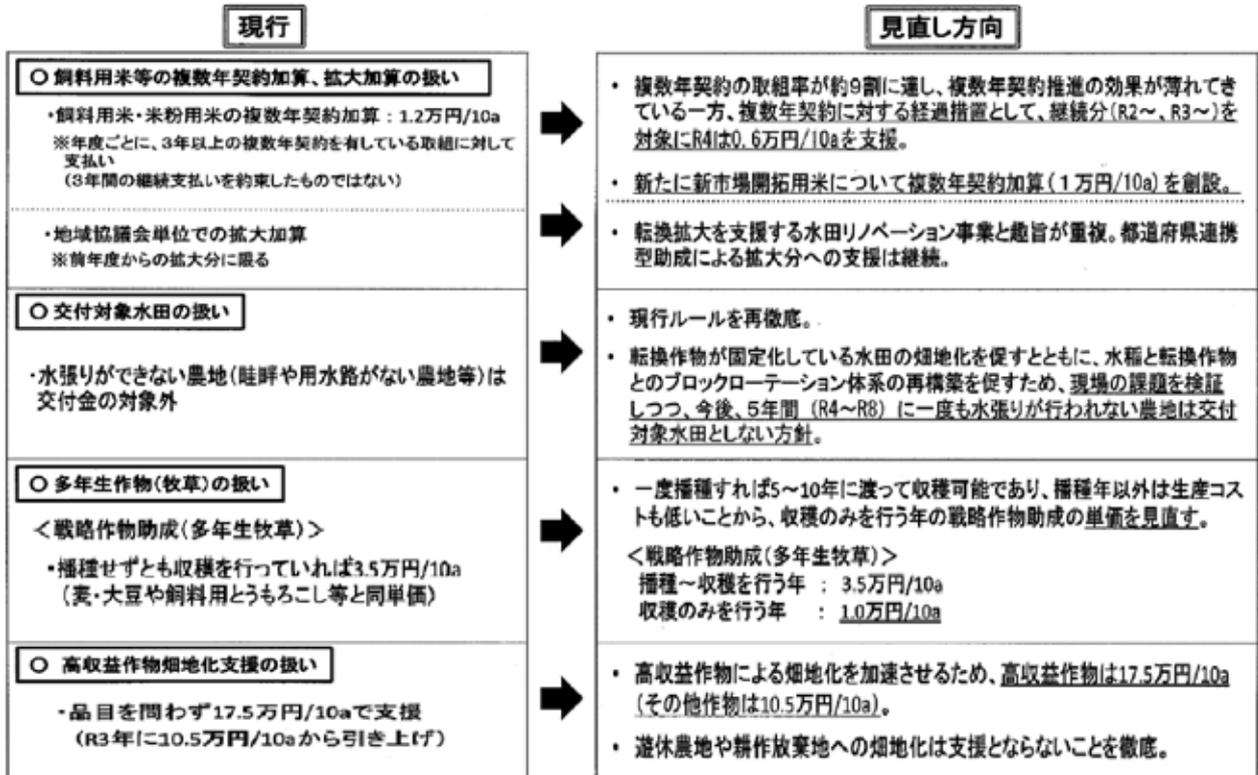
単位：万トン

			基本指数
令和3/4年	令和3年6月末民間在庫量	A	218
	令和3年産主食用米等生産量	B	701
	供給量計	C = A + B	919
	需要量	D	702～706
令和4/5年	4年6月末民間在庫量	E = C - D	213～217
	4年産主食用米等生産量	F	675
	(参考) 前年比較	—	▲21 ▲3.0
	供給量計	G = E + F	888～892
	需要量	H	692
	5年6月末民間在庫量	I = G - H	196～200

3. 需給状況を踏まえた今後の取り組み

(1) JAグループは、現下の需給状況を踏まえ、国の政策や農林予算を最大限活用し、令和4年産での徹底した適正生産（作付転換）を行ってまいります。

【図表4】 水田活用の直接支払交付金の見直し事項（案）



(2) 令和2年産米の持越在庫は、国による「米穀周年供給・需要拡大支援事業」による特別支援を活用し、長期計画的に販売してまいります。取引先の令和2年産米使用を後倒しすることで、令和3年産米の販売促進に繋げるものとします。ただし、この支援事業はあくまでも令和2年産米の一時的な隔離に過ぎません。

早期の需要改善を図るためには、(1)のとおり令和4年産米の適正生産は必須となります。

《「米穀周年供給・需要拡大支援事業」による特別支援および特別枠の概要》

- ① 周年供給事業特別支援は、保管料・金利・集約経費に対し、国等からの支援が50%⇒75%補填に拡充（一定期間）するもの。
- ② 特別枠は、保管料・金利・集約経費に対し、国等からの支援が100%補填に拡充（期間無制限）するもの。

また、販売促進支援として子供食堂向けは品代100%、中食・外食向けは50%補填するもの。

肥料情報

水稲育苗培土・省力化技術のご紹介



昔から『苗半作』と言われるように、根はりが良く強い苗を作ることは、本田での活着、初期成育に影響する、とても重要な作業です。
一緒に、稲作の最高のスタートを目指しましょう。

健苗作りをサポートする**水稲育苗培土**と**省力化技術**をご紹介します！



【合成培土3号】

千葉県で長きにわたりご利用いただいている信頼と実績のある特選培土。粒揃いが良く、透水性・通気性・保水性に優れる定番の粒状培土です。苗が根を張る床土には、粒揃いの良い培土をおすすめします！

床土1.7~2.0kg /箱 覆土1.0~1.1kg /箱



【平成培土】

合成培土3号の安価品。粒揃いに違いがありますが、価格で組合員を応援！

床土1.8~2.2kg /箱
覆土1.1~1.3kg /箱



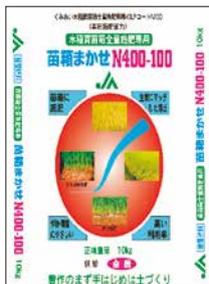
【軽量培土15】

比重が合成培土の約半分。床土に使用することで、1箱が約1kg軽くなります！

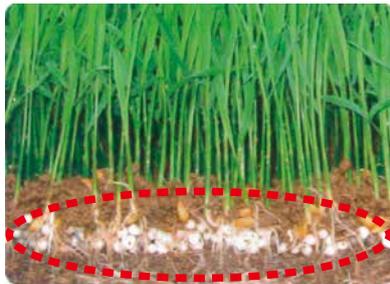
床土1.1kg /箱
覆土は通常培土を使用

- ◆ pHは、それぞれ4.5~5.5に調整してあります。
- ◆ 合成培土3号、平成培土は20kg袋、500kgフレコン、1,000kgフレコンがあります。
- ◆ 軽量培土は15kg袋、500kgフレコンがあります。

究極の省力化肥料「苗箱まかせ」



- 播種時に「苗箱まかせ」を苗箱に施肥することで、本田での基肥と追肥作業が省略可能となります！
 - 肥料の利用効率が側状施肥よりも優れている接触施肥のため、減肥が可能となります！
- 使い方次第では、肥料コストを削減することも可能となります！



育苗時の「苗箱まかせ」

苗箱まかせのタイプ
苗箱まかせN400-60 (60日タイプ)
苗箱まかせN400-100 (100日タイプ)
苗箱まかせN400-120 (120日タイプ)
苗箱まかせN400-100B30 (60日、100日ブレンドタイプ)
苗箱まかせN400-120B30 (60日、120日ブレンドタイプ)

◆ 「苗箱まかせ」は10kg袋、500kgフレコンがあります！

詳しい使い方については最寄りのJAにお問合せください

生産資材
情報「本州太陽シート」でらくらく
平置き育苗（水稻）

1. 「本州太陽シート」とは

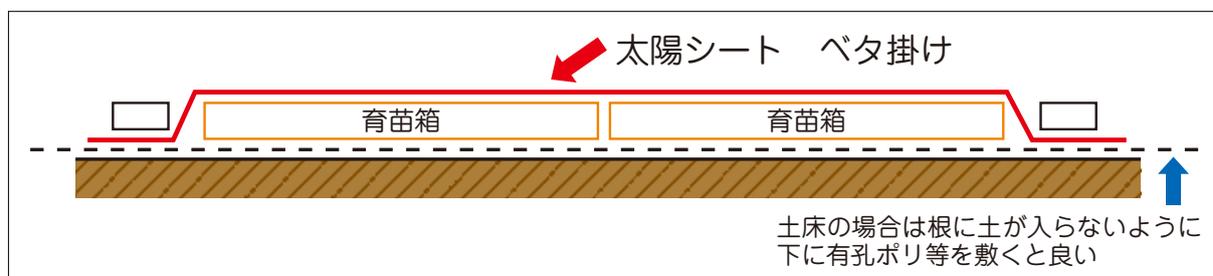
「本州太陽シート」（以下、太陽シート）は表面がキラキラと反射する薄いアルミ蒸着シートで、水稻の平置き育苗向けに開発された商品です。太陽にかざすと光がうっすらと透けて見えます。太陽シートの最大の特徴は高い遮熱性で、ハウス内の温度が50℃以上になっても、シート下は35℃以上にはなりません。シート自体も熱を持たない素材のため、苗の先が触れても焼ける心配もありません。

*野菜の育苗（ねぎ、玉ねぎ、ほうれん草 他）にも使用できます。

2. 使用方法【平置きべたがけ育苗法】

ハウス内に播種した育苗箱を平らに並べ、灌水を十分に行います。（プール育苗にも最適です）その上に太陽シートを直接べたがけし、出芽するまで約1週間かけておくだけです。高い遮熱性により、面倒な日中のハウス換気作業が必要ありません。夜間はアルミ層が地面からの放熱を抑え、シート下を保温します。アルミ層を含む3層構造が水分の蒸発を防ぐため、出芽まで追加の灌水も必要ありません。

出芽が始まり、不完全葉が10～15mm程度の高さになる頃、太陽シートをはがして緑化に移します。太陽シートは適度な微光が透過するようにアルミ層の密度が調整されていますので、徒長出芽がなく、出芽後出葉する葉も予備緑化されています。



3. 規格

巾×長さ	梱包単位	荷姿
1,700mm×50m	3本	紙管巻き
2,000mm×50m	3本	紙管巻き
2,400mm×50m	3枚	3ツ折り
2,700mm×50m	3枚	4ツ折り

「本州太陽シート」の詳細は下記のURLまたはQRコードからご覧ください。

URL : https://www.kyokuyo-pp.co.jp/product_service/pickup/pickup_product-49/



旭洋機HP

お問い合わせはお気軽に最寄りのJAまたは

JA全農ちば資材課（043-245-7379）へご連絡ください

TOPICS

千葉県農協A.T.A協議会 総合技術研究会を開催

12月8日(水)、千葉県農協A.T.A協議会はオークラ千葉ホテル（千葉市中央区）において、千葉県農協A.T.A協議会総合技術研究会を開催しました。

この研究会は、「営農指導の原点回帰」をテーマとし、営農・経済事業の更なる指導力強化に資することを目的に会員間の取り組みの共有・意見交換を行う場として開かれました。

また、研究会では県内営農指導事業の取り組み事例や専門指導員

による取り組みの報告・今後の展望について共有が行われ、午後からは経済事業強化の手法について学ぶグループワークも実施し、最後に、全国の優良事例が紹介されました。

今後も千葉県農協A.T.A協議会は若手営農指導員の施肥・防除技術に関する知識のレベルアップと営農指導員同士の相互連携を強化してまいります。



開会挨拶する
金子会長

TOPICS

令和3年産 千葉米食味コンクールを開催 根本博示さんが千葉県知事賞を受賞！

J A 全農ちばは、12月13日(月)に千葉県農業会館（千葉市中央区）において「令和3年産千葉米食味コンクール表彰式」を開催しました。

同コンクールは、千葉米の品質向上や生産者の生産意欲向上および千葉県産米のPRを目的に、今年で7年目の開催となります。県内全17JAから79点（銘柄：コシヒカリ）の応募があり、一次・二次審査を経て4点が最終審査に選ばれました。



最終審査では、有識者ら計7名による実食審査が行われ、JAかとり管内の根本博示さんが千葉県知事賞に輝きました。また、JA安房管内の野口誠さんがJA全農ちば運営委員会会長賞、JA木更津市管内の竹内和義さんが同運営委員会副会長賞、JAちば東葛管内の鈴木哲夫さんが県本部長賞を受賞されました。

4名の方々にはJA全農ちばの林茂壽運営委員会会長から表彰状と副賞が渡され、根本さんは「米作りを通して地域に貢献していきたい」と抱負を語りました。

TOPICS

イオンリテール(株)近畿圏で 千葉県産農産物をPR

JAグループ千葉は、千葉県と（公社）千葉県園芸協会と連携し、12月3日（金）～5日（日）にかけてイオンリテール(株)四条畷店を含む旗艦10店舗において「千葉県青果物フェア」を開催しました。また併せて近畿圏75店舗でチラシを入れた物販を実施しました。売り場には、主力品目であるキャベツ・だい



こん・にんじん・さつまいもを中心に数多くの野菜が並び、鮮度感を重視した高品質な千葉県産青果物を消費者にPRしました。また、特産品の落花生（Qなっつ）も販売し、来店された多くのお客さまが、千葉県産農産物に興味を示されていました。販売員に「千葉のどこで生産されているの？」などと聞きながら買い物カゴへ入れていく姿も多くみられました。

最終日の12月5日には、JA富里市・JAかとり・JAちばみどり役員と千葉県、東京青果(株)を中心に店舗調査と意見交換会を開催しました。意見交換会では活発な意見が交わされ、近畿圏における販売拡大のために今後もさらなる協力をして取り組んでいくことを確認しました。JA全農ちばは、関係機関と連携しオール千葉体制のもと消費宣伝活動に取り組み、新規顧客の獲得と販路の拡大をはかってまいります。引き続き、産地の皆様のご協力をお願い申し上げます。

全国の旬のおいしさをお届けする JAグループの頒布会

旬鮮倶楽部

旬鮮倶楽部は、全国の旬のおいしさをお届けする JAグループの頒布会です。

年1回のお申込みで、毎月カタログからお選びいただいた商品をお届けします。

毎月旬の味覚が届く1年間をお楽しみください。



果物、野菜、お肉といった
国産農畜産物や、
それらを使ったお惣菜やスイーツに加え、
全国各地の名産品やお花も取り揃えています。

旬の果物の味を楽しむ、遠方の名産品を旅行気分を楽しむ、
お花を見て楽しむなど、様々な楽しみ方が可能です。

**2022年度
お申込受付中!**

旬鮮倶楽部のご利用方法

- 1 カタログから毎月1品以上、年間の商品をお選びください。
各商品は、2,970円～10,800円(税込・送料込)です。
カタログには、季節に合わせた旬の商品を掲載しています。また、コンセプトやイベントに合わせた商品や年間いつでも注文できる商品もお選びいただけます。
- 2 選んだ商品が毎月届きます。
- 3 月々の商品代金は
JAにお持ちの貯金口座からの自動振替となります。
※お持ちでない方はJAへお問い合わせください。

※天候により生育状況が変化しやすい果物等が中心のカタログです。
商品の性質上、お届け日をご指定いただくことはできませんのでご了承ください。

「旬鮮倶楽部」のカタログのご希望、お問合せ、お申込みはお近くのJAへお問合せください。

お知らせ

JA全農ちばは、「アグリ情報“ちば”」が生産者の皆さまとの情報交換の場となるよう努めて参ります。
身近な話題、ご意見、ご要望などございましたら、下記連絡先までお寄せください。

アグリ情報“ちば”に係る 個人情報取り扱いについて



組合員の皆さまからご提供いただきました個人情報、
「アグリ情報“ちば”」送付の目的にのみ使用いたします。

JA全農が提供するラジオ番組



あぐりずむ
WEEKEND

9:30～9:50

毎週(土)放送

生産者の熱い思いをお届けします。

**ZEN-NOH
COUNTDOWN
JAPAN**

13:00～13:55

毎週(土)生放送

全国の農畜産物をプレゼントします。

